

秀作

2022

第20回「金融と経済を考える」高校生小論文コンクール

## 父の金融教育

岡山県・岡山県立岡山大安寺中等教育学校 4年 森岡 夏海

「なんでタバコ会社は配当が高いと思う？」

父はいつもこのような質問を私にしてくる。株とか投資とか、そういう金融や経済に興味が無い私は、大抵「そういうもんなんじゃないの」と返していた。

私の父、また母も銀行で働いている。私は兄より物欲があり、欲しい物のために節約や貯金をしたりねだったりすることが多かったことから、両親は、私はお金に目がない、金融関係の仕事に向いている、と思っていたようだった。だから、父は私に自社の金融や経済の仕組みに関するパンフレットを持ち帰ってきて読ませようとしてきた。それ以外にも、父が読み終わったビジネス本であったり、新聞の記事の一部やサイトを引っ張ってきて見せた。私は小学生の時こそ暇だったので、知らないことが多くて面白いと、ある程度の興味を持って聞いていた。けれど中学生になり忙しくなってから、ゆっくり見ている時間はないし、今金融とか関係ないや、と思い、父が持ってきた資料などを見なくなっていた。しかし、それでも父はそういう話をたくさんしてくれた。特に家族で夕飯を食べている時、軽く酔っ払って仕事の話をよく熱心に話していた。どれだけ仕事のこと好きなんだよ、と私は思いながら微笑ましく聞いていた。話に興味は無かったが、小学生の頃から、仕事のことを楽しそうに話す父はなんとなく好きで、誇らしかった。そんな父にはこんな口癖があった。

「知らないだけで損をする」

中学3年生の時、ついに公民の授業で金融経済についての話になった。その中で、班で実際にある企業から選んで株を買うという、何か月にもわたるシミュレーションをした。それをすると聞いた時、これはうちの父が使えるぞ！とワクワクしていた。聞いた日の夜、父に相談すると、案の定水を得た魚のように生き生きと話してくれた。次の授業があった日もその次も、私から聞いてきてくれたことが嬉しいのか、色々教えてくれた。そして父の話や授業を聞く中で、父の口癖で

ある「知らないだけで損をする」という意味がわかってきた。例えば、最初に書いた質問、「なぜタバコ会社は配当が高いのか」について、私が適当な回答をすると、父はヒントをくれる。タバコ産業は成熟産業だよ、と。私が大まかに説明できるようになるまで待ってくれるのだ。最終的に、父が言うには、タバコ産業は成熟しきった産業だから、利益を得たとしても投資する事業がない。そうすると株価が上がりにくいので、投資家たちに得た利益を配当として分配しないについてこなくなる。また、他企業は景気に左右されるのに対し、タバコは景気が悪いかから今の時期は吸わないでおこう、ということは滅多にないから、ということらしい。このことを聞いた時、本当に納得して感動した。これだけではなく、色々な質問をされ、考えて、答えを聞いて、理解して、もしこれらのことを知らなかったら、これから自分がいかに日常的に損をしていくのか、容易に想像できた。今思えば、知らない「だけで」損をするのではなく、知らない「から」損をするのだらうと思う。法律違反で警察に捕まってその法律を知らなかった、では済まされないのだ。知らないことが問題なのだと感じた。

最初、父は聞いたら色々なことを教えてくれた。しかし次第に、自分で調べて考えろ、といったふうに教えてくれなくなり、放置された。初めは、面倒くさくなってきたのかな、今日は気分じゃないのかな、と思っていたが、それも父の策略だったようだ。クイズの時に、すぐ答えを言わず考えさせようとするところも同様に、自分で調べたり考える癖付けをしていたのだ。これは金融や経済の話の時だけではなかった。機械のシステムに疎い私が、スマートフォンのデータを移行してほしいと父に頼むと、自分で調べろ、頼るな、と言うのだ。父がこのようにする理由は一つ、私達は「学び直し」をしないといけないから、だ。これも最近父がよく言う言葉だ。今は技術革新によって環境の変化が著しく、そこに対応できる人こそが社会で生きられる。そこで必要なのが、人から聞くだけではなく、何回も自ら調べて、「学び直し」ていくこと、なのだ。近頃よく言われていることであると、これから大失業時代が始まり、人工知能の発達によって繰り返しの性格の強い業務は消え去るだろう、と。確かに、総務省の「令和元年労働力調査年報」より、そのような業務を含む可能性が高いと考えられる職業の就業者数を合計すると、全体の約46%にも及ぶ<sup>注)</sup>。逆に、残り54%は、手を使い繰り返すのではなく、頭を使う1回限りの仕事だ。このような仕事をするためには、必要な知識やスキルの

グレードアップが不可欠となる。このことも知らず、学び直すことのできない人は、就職できたとしても、もれなく46%に含まれていくことになるだろう。

今の時代、金融や経済に興味がある学生はどのくらいいるのだろうか。若者の選挙の投票率が低いと同様に、お金の信用が高い日本では気にかける人は少ないのだろうか。はたまた、学生時代から会社を立ち上げ、社長になるような人も出てきているから、興味はあるのだろうか。私の周りでは、授業でシミュレーションをした時も、勝つために一応調べてみた程度の人が多かったので、興味はそれほどなのかなと思う。もし興味があったとしても、私の父のように説明してくれたり、子供自身に考えさせるような伝え方ができたりする大人は多くはないと思う。そこで重要だと思うことが、自分で調べて、知り、考え、また繰り返し調べ、学ぶ「学び直し」だ。現在、「学び直し」の選択肢は多種多様に広がっている。動画配信サイトなどのコンテンツやネット記事、通信教育、もちろん紙媒体である書籍もだ。なので、これから社会で生きていくためには、性別、年齢、国籍関係なく、自分の意志で自分自身にどれだけ投資できるか、が鍵になっていくのだと私は思う。

人生100年時代の中、自分自身を守るために、私の時間を私のために「学び直し」へ投資しようと思う。

(注)

総務省「令和元年労働力調査年報」I - A - 第7表をもとに筆者が試算

URL <https://www.stat.go.jp/data/roudou/report/2019/index.html>

閲覧日 2022年8月21日

